

原職剥奪を許すな！
兼務解除攻撃粉碎！

「人活センター」から「無人駅」へ、さらにそこから「売店」「駅」へと、強制配転の連続で丸三年を迎えようとしている。

当局の『活動家封じ込め』は、センター廃止、無人駅廃止に見られるように、すべて失策に終わっている。

これは、われわれが職場生産点において、原職奪還に向けた不屈の闘いを繰り広げた結果の勝利である、と確信している。

そして今日、当局は新たな攻撃をかけてきた。機構改革に名をかり、売店・駅配転者の『原職』をことごとく剥奪しようとするものである。「兼務解除」すなわち原職剥奪攻撃を絶対に許してはならない。

当局のいう「兼務発令者の兼務を外し、職名を一本化する」というこの攻撃は、「原職を外し、兼務職を職名とする」ものであり、完全に原職復帰への道を絶つものである。

今回の発令文を見よ、すべて「駅・営業係を命ずる」のみではないか！

この「兼務職の一本化」攻撃を粉碎しない限り原職への復帰はあり得ない。

今時の原職剥奪攻撃に見られるごとく、それが闘う者への「隔離」「排除」であることを見抜き、四・一体制改革、原職奪還の闘いの最先頭に再び起つことを決意しなければならない。

当面は、当局のこの攻撃を逆手にとり、営業の中で動労千葉の闘いを展開し、組織を拡大していくことが重要だと考えている。

転勤の説明求めたら賃金カット！
反動区長・菅井の暴挙を許すな

幕張電車区当局は二月、佐原・成東両派出、いわゆる「無人駅」を一方的に廃止して、その勤務者六名を売店と駅に振り分け、配転を強行した。事前になんらの説明もなく転勤を強行せんとする当局に対し、当然にも六名は、その理由ないしは将来展望を含めた説明を求めた。

これに対し当局は、反動区長・菅井以下だれ一人として解答もせず、「説明の必要なし、だまつて従え」と繰り返すのみであった。

その後、二カ月を経過して区当局は、六名に対し一H（二H）の賃金カットをしてきた。その理由は、あるることか「二月一日の区長抗議」であるという。そもそも六名は、その日（二月一日）は、「転勤の説明があるから来区せよ」という区当局の業務指示により区へおもむいたまでである。言うまでもないことであるが、区長室での話し合いも業務の一環である。それを区長への抗議だ、業務妨害だ、とデッチ上げての賃金カットは絶対に許すことはできない。

このことの狙いは明白である。今、当局は賃カッスを恫喝の材料としてあらゆる当局への不信・不満を葬り去ろうとしているのだ。

分割・民営化後、職場には怒りが渦を巻いている。今こそ、その怒りを組織し、拡大し、当局の恫喝にひるむことなく全組合員が決起し、四・一体制改革、二万人首切り阻止に向け進撃していく！
（寄稿・直管店・A）

「四・一国鉄分割民営化体制」とたたかう

4・9 国鉄労働者集会

日時 4月9日（土） 午後3時

会場 東交会館 山手線田町駅下車一分

主催 国鉄動力車労働組合総連合

国鉄千葉動力車労働組合